

- 左の学力チャートでは、「数学に関する意識」が高く、学ぼうとする気持ちが強みです。
- ただし、学力そのものは3教科ともにまだ伸びしろがあり、学んだことを確かな力にすることが大切です。
- 右のチャートでは、小学校と同様に「読書等」「学習習慣」「(規則正しい)生活習慣」に課題が見られるため、学校と家庭が連携した日々の習慣づくりが今後の力になります。

第2次摂津市教育振興基本計画【令和8年度～令和13年度】

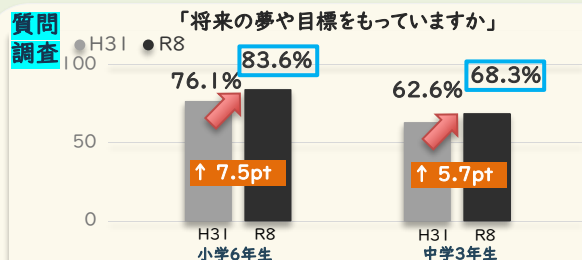
- ・基本方針1 こどもたち一人ひとりが、自ら未来を思い描き、主体的に切り拓く「生きる力」を育みます
・基本方針3 家庭、地域、学校とともに生涯にわたる「学びの輪」を広げます

- ・基本方針2 人と人をつなぐ「ことばの力」を育みます
・基本方針4 豊かな学びを支える教育環境をつくります

基本方針1

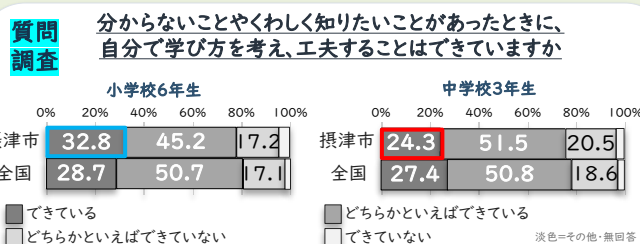
こどもたち一人ひとりが、自ら未来を思い描き、
主体的に切り拓く「生きる力」を育む

社会を生き抜く力との関連



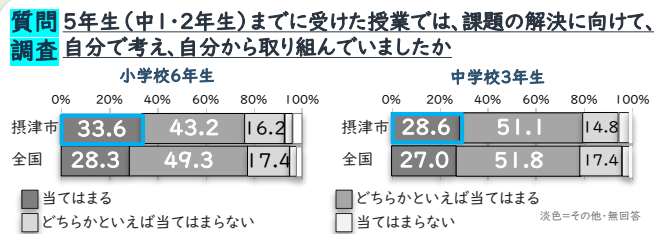
キャリア教育の取組等により、小・中学校ともに肯定的回答の割合が向上しています。
子どもたちの『未来を描く力』が着実に育っています。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実との関連



小学校では「できています」の割合が全国を上回っています。
知識を身につけるだけでなく、学ぶ意味や社会とのつながりを意識し、自分に合った学び方を見つけ、主体的に学びへ向かう姿勢を育てることが大切です。
一人ひとりの学習ニーズに応じた指導を充実させ、「もっと知りたい!」という探求心を育む授業づくりを進めます。

自ら未来を切り拓く教育の推進との関連

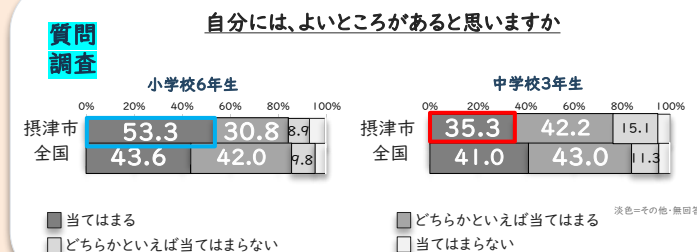


小中学校ともに「当てはまる」の割合が全国を上回っています。
これからの時代は、変化が激しく、将来の予想が困難な社会となっていきます。
自ら課題を見つけ、知識や経験を生かしながら工夫して解決、実行する力が大切です。
授業や様々な取組の中で、自分で考え、判断し行動する機会をさらにつくります。

基本方針2

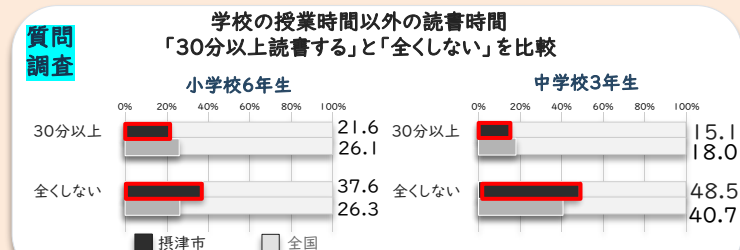
人と人をつなぐ「ことばの力」を育む

授業や体験活動、学校行事、道徳教育の充実との関連



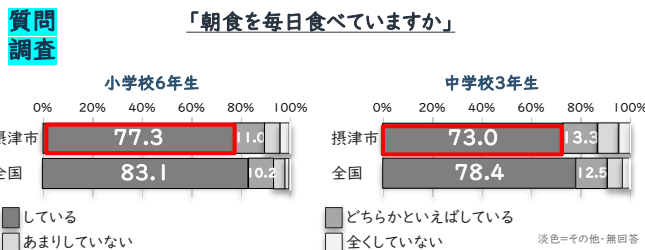
小学校では「当てはまる」の割合が全国を大きく上回っています。
「ことば」には自分の思いを伝え、相手を理解する力があります。自分の良さに気づき、自己理解することが多様な個性や違いを尊重する態度につながります。
授業や学校行事等の体験活動を通して、言葉や文化、自然に触れる経験を重ね、心の成長を促します。

読書活動の推進との関連



不読率(本を全く読まない)の割合が全国を上回っています。
家庭で本に触れる機会、大人が読書する姿を見る機会が多いほど読書習慣が身に付きます。読書により探求心や感性、想像力を育むことにもつながります。
こどもたちが行きたくなる「魅力ある学校図書館づくり」を進めることに加え、図書教材の活用や、市民図書館と連携した授業づくり等を進めます。

基本的生活習慣の定着との関連



毎日朝食をとる児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高い傾向があります。
小6国語正答率:毎日食べる66.5%/全く食べない48.5%(18ポイント差)
中3数学正答率:毎日食べる56.3%/全く食べない41.8%(14.5ポイント差)

令和8年度全国学力・学習状況調査 摂津市の結果(クロス集計)より

結果から見えることと今後の取組

「好き」「やってみたい」を、未来を切り拓く力へ。

摂津市のこどもたちには、国語や算数・数学への意欲、そして将来の夢や目標をもつ姿に強みが見られます。今回の調査では、小学校の国語、算数の学力に成果が見られた一方で、小・中学校ともに、学習習慣や読書習慣に課題が見られました。

これからの時代を生き抜くためには、基礎学力や生活・学習習慣に加えて、自分で考え、ことばで伝え、仲間と学び、失敗しても工夫して挑戦し続ける力が必要です。

学校・家庭・地域・企業等がつながり、すべてのこどもが「自分には可能性がある」と感じ、夢や目標に向かって歩める摂津の教育を一層推進していきます。

摂津市教育大綱



第2次

摂津市教育振興基本計画

